

各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を
構成するより各社同一の記事を掲ぐるふと寡からず獨
り時事新報社は社員並に通信員の多さを以て斯類の社
に通信を依頼せよと雖も世間往々此事を知らずして通
信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信
する方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡か
らざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に
本社に向け發送あらんふとを請ふ

を始め各府縣に通信
網に報道を發送し各新

書生に過ぎず即ち磊落簡易の舉動みを其本色にして全の虚威虚飾は寧ろ不得意の所作を演ずるみとなれば酒を強ひ無口の人に冗談を望むの類に非ず我輩は其人が速に氣を轉じて舉動の一變を希望するものなり如も事の難易を云へば都内の改革は至難中の至難にして假令ひ其至難を犯して之を行ふも其結果を以て民衆の満足を買はんとするは更に又困難なる其反對に一身の虚威虚飾を去るの一事は同日の談に非ずして其決心を第明日にしめ之を行ふなど難からず而して實際の結果何と云へば之が爲めに世間に懐疑の情を滅じ民謡をして無害は必ず請合ひなりと云ふ孰れを先にし孰れを後にする可きかは智者を待たずして知る可し今日と爲人しては改革も未より止む可らずと雖も易きものより先にするみを適當の順序なる可しと信ずるなり

東南部アラス

(前號の續) 開部 敦介
モー人及其風俗 イスキモー族は西半球北

元は何族にも

の一たるは世の知る處なれど其祖先は何族にして何時何邊より來りしやは土人の文字なく紀號なく且つ數の能力甚だ微弱なるが故に世の探究者は之を知るに殆ど遠く固より此土族中には其口吻に傳ふる種々の昔話多じど雖も彼等は二十年前のお事すら追憶指し難

するの力なきを以て更に其時代を知るによしなく甚
きに至りては漸く五六歳を経過せる己の小兒等の年
さへ之を告ぐる能はざるものあり
アラスカ イスキモ一人は身の丈四尺五六寸顔の形
くして暗褐色を帶ぶ鼻は廣運にして兩眼の間更に丘
なし額骨高く出で眉目も亦秀び頭髪荒く其色黒し男
は其頭の絶頂を剃りて周邊にのみ長く垂るのみ二三十
女子は前頭に於て之を左右に分ち両端を編みて長く土

右の耳邊に垂る男子の鼻下鬚を生ぜず中年後ものに之を貯へるも至て疎にして短し眉毛は冬期に至れりと截縮す男子年二十歳以上より左右口角の少しく一部に穴を穿ち角牙寶石を以て造れる裝飾器を着く女は下唇より顎に掛け三條の黒縄を文身す又耳朶には歯牙等より造れる耳装を帶ふ被服は甚だ單一にして鹿皮を以て製せる二枚の短衣よりなる下着は毛を肌にし若は之を外に現はず襟には繩付の頭巾ありて僅に顔を現はすのみ股引も鹿皮を以て製し漸く膝下に至る靴アザランの皮を以て底となしたる鹿皮の長靴を用ひ足袋手袋も皆鹿皮よりなる帶は梶爪或は狼爪を以絆りたる熊皮の一重巻にして後部に狼尾を垂る女服男衣より長く殆ど膝下に達る而して帶には狼尾を附テ股引は靴と共に繩付け鹿の脚皮を以て之を造る男女服共裏毛又は山猫等の長毛を以て盛に其袖口裾等を飾る此地の土人は皮の制裁たるを尚ほ少寒氣を以て爲に毛と其體に存し只裏のみをなめして用ふ夏はザランの桑草より造れる不透水の蓑笠を穿つ夏は天幕に住し冬は土窟或は尋小屋に住す夏の重なしき食物は鰐羅白魚(ボラの如し)鰐肉の類にして冬は内、鰐肉、アザランの類なりアザラン鳴雁の類は之を

て食するも其他の肉類に至りては全く之を其體生食す
土人一般小食能く飢く堪め夏間冰雪の融解流失せる頃
に於ては南より来る處の潮流(日本潮流と云ふ)に伴ふ
て幾多の枯木海岸に漂着す是れ即ち土人の薪炭となり
又百般の材料となる之を以て夏間土人の木片の蒐集に
意を用ふるんど甚し冬來り冰雪海陸を覆ふて海岸又一
木片の目に遭るものなき時に際しては粘土を以て造
れる火鉢様のものに鯨油或はアザラシの油を燃きて
火燈火に代用す食器は甚だ簡略にして木製の椀鉢及杓
子のみ食するに肉又又は箸の類を用ひず庖丁と五指之
が代用を爲す又生來五體を洗ふを爲さず故に皮膚は其
色全く暗褐色を呈し衣服は油漬に汚れて臭氣鼻を臭く
土人は一體壯健にして能く風雪寒威に堪ふ稀に彼等の
苦む處の疾病はヨーマチズム、氣管取病、熱病の類にして
又初夏五六月の頃雪に薄く日光に射られて眼疾に罹るもの多しと雖も藥石の之を治するものなきが故に
其苦難を忍んで自然の平瘡に任せ來りしが白人の來

此の酒精を此無毒の人類に撒布せり此毒たる半數を殺せり加之現今生存せる土人にして此病毒の多少を帶びざるもの殆ど少きに至れり彼の遠く山地に住みて更に鯨船と交通せざりし内地の土人の如きも近來食を求めて海濱に至るみると屢々なるより此病毒は多大被害の血程にまで染入せり我避難所の此地に設置以來土人の來りて醫薬を乞ふもの多く其十中八九までは此悔毒患者なり